

会議要旨

会議の名称	令和7年度 第1回おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議	
日 時	令和7年8月29日（金曜日）15時30分から16時40分まで	
場 所	おいらせ町役場本庁舎 庁議室	
出席者等	委 員	<p>【出席者】（8人）</p> <p>平井 太郎（会長）、榎 公彦（副会長）、高田 雅史、佐藤 豊、中村 綱吉、木村 紀子、佐々木 秀智、佐々木 寿子</p> <p>【欠席者】（3人）</p> <p>関 和洋、柏崎 尚久、遠藤 剛</p>
	事務局	<p>政策推進課</p> <p>課長 田中 貴重、課長補佐 川原 真栄子、主任主査 馬場 祐二</p>
傍聴者数	0 名	

1. 開会

※事務局の進行で開会。（15：30）
異動等により新しく委員に選任された、おいらせ町地域活動連絡協議会の佐藤会長と青森県立百石高等学校の木村校長から自己紹介があった。

2. 会長あいさつ

発言者	発言内容
平井会長	お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今日はおいらせラボのご報告をさせていただきます。また本会議のメンバーである高田社長、木村校長先生、佐々木委員も関わったブナパークでのビオトーププロジェクトがとても素晴らしい成果が出ていると伺っております。ラボで生まれたシモクバという地域の拠点もご紹介しますので、皆さんからいろいろなアイデアやご提言をいただきたいと思っております。ぜひよろしくお願いたします。

3. 報告	
(1) おいらセラボの活動報告	
発言者	発言内容
事務局	<報告(1)について説明>
平井会長	ビオトープの事業について、主催した高田委員から感想をお願いします。
委員	これからおいらせ病院とおいらせ町役場がイオンモール下田の近くに来るため、この周辺の付加価値を高めたいということでビオトープの事業が企画されました。お金をかけて何かを作るだけではなく、地元の若い方々が進んで参加し、最後を作り上げるのがこれからの未来にとっても良いと思いました。この会議を通じて、たくさんの方と知り合えてまた協力してくれたことが良かったです。ありがとうございました。今後は、秋冬にまたイベントを考えておりますので、今回関わっていただいた人たちにご参加いただきたいです。あとは、参加した若い人たちが地域に残ってほしい、東京からまた戻ってきてほしいという願いを込めて、地域を忘れないでいただきたいです。そういう意味でも、経済面ではなく、地域に貢献できたという意味で費用対効果が高い取り組みであったと感じています。
平井会長	ありがとうございます。一緒に事業を行った佐々木委員はいかがでしたか。
委員	このビオトープ事業は、簡単に進まないだろうと感じていましたが、下田タウン株式会社さんの方で実施してくれたおかげで実現できましたと感じています。特に百石高校から7人の生徒が参加してくれたことが本当に大きかったです。今後は、この7人の生徒が、地域のローカルヒーローとなってこの事業を拡げてくれるような場づくりを考えていきたいです。
平井会長	百石高校の方で、生徒7人はどのように選びましたか。
委員	校内で検討して7人の生徒を選びました。ビオトープを作った後も長期的な視点を考えていて、彼らにとって地域愛を育める場所、大事な場所、宝として認識できるように活動して行ってほしいと感じています。また来年度以降に入ってくる後輩たちにも繋いでいき、百石高校が作ってきたという伝統をつないでいきたいと考えております。そういうことから、1年生のエネルギッシュな7人をお願いしました。インタビューでも自分たちの意見をしっかりと述べていて、学校では学べない貴重な体験になったと感じています。
平井会長	部活みたいに、卒業しても後輩達を温かく見守る、そういう関係になってくれると素晴らしいと思います。

平井会長	シモクバの件で、補足をお願いします。
委員	佐々木商事で考えていたのが、自分たちも高齢になっていく中で、介護保険に頼らない仕組みを作っていかなければならないと感じていました。おいらせ町に戻ってきたときに、子どもたちの生活困窮の話も聞こえてきたので、そこを掛け合わせて、子どもも高齢者も多世代で交流できる場所をつくりたいと思い、おいらせラボに提案しました。ラボの皆さんからアドバイスをいただいて、実際にスタートしたのは今年の7月3日です。徐々に来てくれる子どもたちが増えていき、多い時は10人以上も集まっています。店番をしているのは、実は私の母で81歳になりますが、子どもたちと触れ合うことで元気になり、介護予防に繋がっている手ごたえは感じます。また集まっている子どもたちもスマホやゲームで遊ばずに、昔遊びを試してみたり、折り紙を試してみたり、中がかくれんぼを試してみたり、いろいろな遊び方を自分たちで工夫しているように見えます。今後はシモクバの近くにある百石高校とも連携したいと思っています。生徒さんたちが、シモクバに来ている子どもたちの宿題を手伝ったり、高齢者にスマホやLINEの使い方を教えたりしてくれたら良いなと思います。考えていることはたくさんありますが、まずは子どもや障害者の居場所づくり、あとは高齢者の居場所づくりを目的に進んでいきたいです。
平井会長	参加した百石高校から何か補足はありませんか。
委員	百石高校では、総合的な探究の時間があります。1年生のときは、町を知る、自分を知るというテーマで活動し、2年生になると、自分で課題を設定し、それに対して解決する方法を共有していく活動になります。その中の一つに、高校生の居場所があれば良い、夕方ちょっと入れる場所があったら良いのにというテーマを設定した生徒もいました。だったら、生徒たちが、シモクバで駄菓子屋を手伝ったり、集まった子どもたちの面倒を見たりしても良いのかなと思いましたし、将来的にWi-Fiも繋がったら、かなり生徒たちが集まるのではないかと感じました。また、先ほどLINEの講習会を地域おこし協力隊の方が実施したと報告がありましたが、これを参考に生徒たちも高齢者にLINEを教えることもできるのではないかと思います。今後生徒たちの時間帯や安全面等に配慮していただけるのであれば、協力していきたいです。
平井会長	百石高校との連携を始められる可能性を感じました。ぜひよろしく願いいたします。まちづくりワークショップについて補足をお願いします。
委員	ワークショップで出たアイデアレベルの提案を、これからはもっと深めていきたいです。これで終わりにするのではなくて、今後のまちづくりの中にどうやって反映させていくのかということ、我々も役場の方々も考えていく必要があると思います。これに住民の皆さんの視点も反映させて、まちづくりを進めていきたいです。
平井会長	ポイント制度の提案がありましたが、ご当地WAONの導入や健康イベントに参加するとポイントがたまるという仕組みは面白いですし、シモクバでも協力してくれた高校生にポイントをあげると盛り上がるので、ぜひご検討していただきたいです。シモクバについては何かご意見はありませんか。
委員	児童が多いので、そういった場をつくることはとても素晴らしい取組だと思います。

委員	シモクバの取り組みは良いなと思っていました。ハローワークの求職者数は年々減少しています。人口が減少しているため、求職者も減少しているのだと思います。年代別に見た場合だと特に若い方が減少しています。逆に高齢者は前年度に比べると増えています。そういう意味でいうと、昔であればもう60歳で定年退職したら、働く意欲がなくなっている方が多かったのですが、現在は65歳～70歳より上の年代でも働きたい方が増えているのかなと感じています。就労ではありませんが、まだ体が動ける間に、こういう集える場所があるのは非常に素晴らしいと思います。シモクバは7月から実施していたようですが、何か周知やお知らせとかはされたのでしょうか。
委員	今回はメディア等で周知せずに、佐々木商事株式会社のSNSで周知しただけです。そこから子どもたちや保護者からの口コミで広がっていったのかなと思います。
委員	高齢者やいろんな年代が集える場は非常に素晴らしいと思いますし、フリースペースもあるので、例えば趣味等の活動ができる場所をつくるとさらに集まりやすいのかなと感じました。
委員	1年目の提案事業について、例えば担当課に提案したという結果で載っていますが、引き続き提案した後になったかという進捗も把握していただきたいです。このシモクバは、佐々木商事株式会社がボランティアで実施している事業ですか。
委員	そうです。
委員	空き家対策は、空き家にどんどん新しい人を入れていくことが目的なので、こういうシモクバの事業は大変素晴らしいことだと思います。しかし、これはあくまでもボランティアなので、町や町の企業が横から支えてあげる仕組みをつくっていかないと増えないのではないかと思います。そのために今回の方法のような議論の場で形にしていけば良いのかなと思いました。
事務局	町の方から補足します。今回提案のあったシモクバを進めてきましたが、それに関連して、空き家対策も地方創生事業の一環であります。町もこれから空き家対策を進めることとしており、国や県の支援を受け、今年度は空き家管理システムの改修、来年度から空き家の実態調査や法廷協議会を設けていきます。デジタル技術の活用については、商工観光課や場合によっては商工会と連動して、今後は物価高騰の補助金等を商品券ではなく、ポイント化等を検討していきたいです。その中で、高齢者等にスマホを教えたり、ご当地WAON等を検討したりすることも必要です。公共交通の充実については、高齢化が進む中で、全国的にバスやタクシーの運転手が不足していることが問題となっており、公共交通の重要性がますます大きくなっています。そのため、役場や病院がイオン周辺に移転することをきっかけに、公共交通の拠点も含めたまちづくり構想を新たに検討しています。皆さんから出た意見や提案を参考にまちづくりに取り組んでいきますので、これからもご助言、アドバイスをよろしくお願いいたします。

平井会長	事務局の回答に補足します。提案事業1に関しては実現しましたし、提案事業2のごみ処理問題は担当課に提案したほかに、シモクバへのコンポストの導入等、小さなことから始めても良いのかなと思います。提案事業3は、町だけでは難しいので八戸圏域連携中枢都市圏で引き続き検討してもらうことになりましたし、提案事業4もビオトープというかたちになりました。他では、提案しても具現化しないことが多いのですが、おいらせ町では、民間事業者、連携中枢都市圏や市町村との広域連携、青森県、百石高校等にご協力いただき、上手く具現化していると感じているところです。これから、空き家対策、公共交通、新庁舎移転等の中長期的な事業も実施されていきますので、皆さんからも引き続き、ご提案やご協力いただけたら幸いです。
------	---

4. その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から委員に向けて、御礼と次期おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議への参画のお願いがあった。 ・佐々木委員から、青森県主催の「あおもり中小企業のための省エネ・脱炭素経営セミナー」等のチラシの説明と配布があった。 	

5. 閉会	
※閉会する。(16:40)	